



答 辞

柔らかな春の光に包まれ、草木の芽吹きに新たな始まりを感じる季節となりました。

本日は、理事長先生、学長先生を始め、諸先生方、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、このような心温まる式典を挙げていただきましたこと、卒業生一同、心より御礼申し上げます。また、私たちに温かい祝福と励ましのお言葉を賜り、身の引き締まる思いとともに、感謝の気持ちでいっぱいです。

二年前の春、私たちは期待と不安を胸に、この作新学院大学女子短期大学部の門をくぐりました。新しい環境に戸惑いながらも、同じ志を持つ仲間と出会い、温かく導いてくださる先生方に支えられながら、一步一步前へと歩んでまいりました。

この二年間で、私たちは保育の専門知識や技術だけでなく、子ども一人ひとりを理解し、その思いに寄り添う姿勢の大切さを学びました。実習では、認定こども園や保育所、そして社会的養護の現場など、さまざまな環境で子どもたちと向き合う経験を重ねました。年齢や背景の異なる子どもたちと関わる中で、求められる役割や視点が一つとして同じではないことを実感いたしました。

特に、一時保護所や母子生活支援施設での実習では、「今、この子にとって何が最善なのか」を考え続けることの重要性を深く学びました。目の前で甘えたい気持ちを見せる子どもに、すぐに応えてあげたいと思う一方で、あえて距離を保ったり、過度に介入しない関わりが必要とされる場面もありました。その判断は決して容易ではなく、葛藤することもありましたが、感情だけで動くのではなく、責任をもって関わり方を選択することこそが支援であると気づくことができました。

また、子どもの行動の背景には、これまでの家庭での暮らしや家族との関わりが深く影響していることを、実習を通して学びました。表面に見える姿だけでなく、「なぜこの行動をとるのだろう」と、その背後にある経験や思いに目を向けることが大切だと感じています。だからこそ、支援は子どもだけに向けたものではなく、家族とともに寄り添いながら行うことが重要であるということも学びました。

子どもの成長や発達は家族との関わりと深く結びついていることを知り、保育者としてより広い視野をもつ必要性を強く感じました。これらの視点は、短大での講義や先生方のご指導によって繰り返し教えていただいたものであり、実習を通じてその意味をより深く理解することができました。

先生方には、講義の中だけでなく、悩んだ時や迷った時にも親身に寄り添っていただきました。私たちの可能性を信じ、励まし続けてくださったことに心より感謝申し上げます。

また、共に学び、笑い、支え合ってきた仲間の存在は、かけがえのない宝物です。グループワークやさまざまな行事を通して、自分の強みを活かしながら、協力することの大切さを学びました。互いを認め合い、支え合う中で、現場で求められるチームとしての実践力を身につけることができたと感じています。楽しいことだけでなく、実習や課題に追われる中で不安を分かち合い、励まし合ってきました。そうした時間があったからこそ、今日この日を迎えることができたのだと思います。

そして、どんな時も一番近くで支え、見守ってくれた家族に心から感謝しています。私たちが夢に向かって挑戦できたのは、変わらぬ温かい応援があったからです。

未熟な私たちではありますが、四月からはそれぞれの場所で新たな一歩を踏み出します。作短での学びと経験を胸に、子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、何ができるのかを常に考え行動できる保育者でありたいと思います。そして微力ながらも、子育て支援や福祉の一端を担える存在となれるよう、誠実に歩み続けてまいります。

最後になりましたが、作新学院大学女子短期大学部の益々のご発展と、教職員の皆様のご健康、在学生の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和8年3月15日
作新学院大学女子短期大学部
卒業生代表 大倉 真弓